館長だより第５号（２０１７／１２）

平成 29 年度冬期企画展・特別陳列について

和歌山県立紀伊風土記の丘では、来る平成 30 年 1 月 20 日（土）から 3 月 4 日（日）までの予定で冬期企画展「うつわに隠された物語～装飾付須恵器の世界～」および平成 30 年 1 月 13 日（土）から 3 月 4 日（日）までの予定で特別陳列「紀伊の古墳―東京国立博物館所蔵品から―」を開催します。今回はこの二つの展覧会について触れてみましょう。

まず「**うつわに隠された物語～装飾付須恵器の世界～**」です。須恵器は古墳時代後半の 5 世紀前半ごろに朝鮮半島の南部にあった伽耶（かや）地域から渡来した陶器技術者によって製法が我が国に伝えられたことに始まる新しいやきものです。その最古最大の須恵器生産地とされているのが大阪府堺市ほかに広がる泉北丘陵（せんぼくきゅうりょう）を中心とする和泉陶邑窯（いずみすえむらがま）です。

この生産地の成立に紀氏がかかわっていたという研究成果もあり、岩橋千塚古墳群の被葬者たちとのかかわりも強いのではないかと考えています。

ところで装飾付須恵器とは須恵器本体に人間、鳥、シカ、馬などの小像や壺や瑞（はそう）などを配置するもので、日常の器ではなく古墳などで行われる祭祀儀礼（さいしぎれい）に供された非日常の器です。これらの装飾付須恵器に配置された小像の動きに狩猟などの当時の風俗習慣を具現化したものとして、それらの中に物語を読み解くという研究者もいます。しかし形象埴輪のように被葬者の生前の暮らしを彷彿（ほうふつ）とさせるという内容まで至っていないのではないかという意見もあり、今後の課題として問題は残されています。

同じ装飾付須恵器ですが、本体に小形の器物を配置した子持須恵器があります。とくに台付壺や器台に多く見られます。子持器台は、出土する古墳が地域によっては首長墓あるいは特定の豪族との関係が濃い可能性も指摘されており、注目されています。

いずれにしても装飾付須恵器は、それぞれが特徴的な形態を示しており、そこからさまざまな想像を巡らせることができます。ぜひご覧になってそのロマンの世界を感じていただければと思います。

・主な展示品

有田市 簑島（みのしま）1 号墳出土子持装飾台付壺

和歌山市 殿山古墳出土子持台付壺

岩出市 船戸箱山古墳出土子持器台、子持装飾台付壺ほか

特別陳列「紀伊の古墳―東京国立博物館所蔵品から―」では、東京国立博物館に収蔵されている明治 7 年から昭和 15 年に和歌山県内で出土した考古資料のうち、29 点が里帰り展示されるものです。これは独立行政法人国立文化財機構の考古資料相互活用促進事業によって実現したもので、他機関の所蔵する関連資料と合わせて紀伊の古墳出土資料の優品を紹介するものです。今回初めて里帰りする遺物もあります。ぜひこの機会にご覧になってください。

・主な展示品

和歌山市 大同寺（六十谷（むそた））遺跡出土家形埴（はそう）、有蓋脚付短頸壺（たんけい）

有田市 椒（はじかみ）古墳出土虺龍（きりゅう）鏡、石枕、土師器

御坊市 阪東丘古墳出土六獣鏡、玉類ほか

陶質土器　家形埴（はそう）　和歌山市大同寺遺跡出土（東京国立博物館）

Image:TNM Image Archives